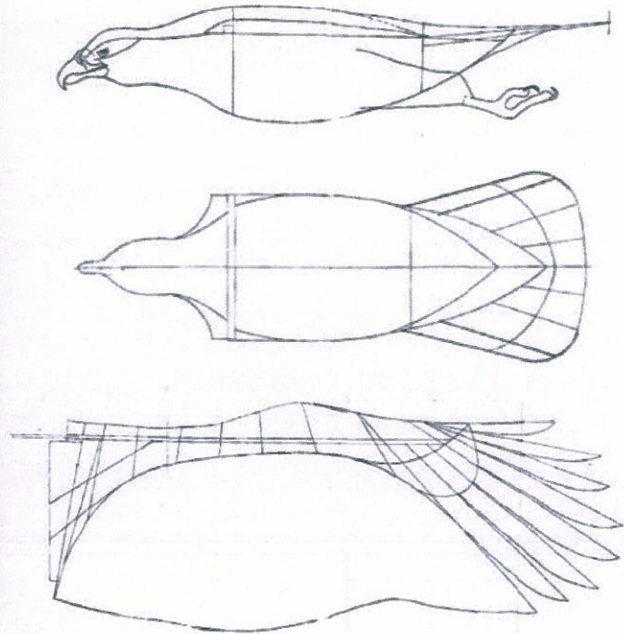
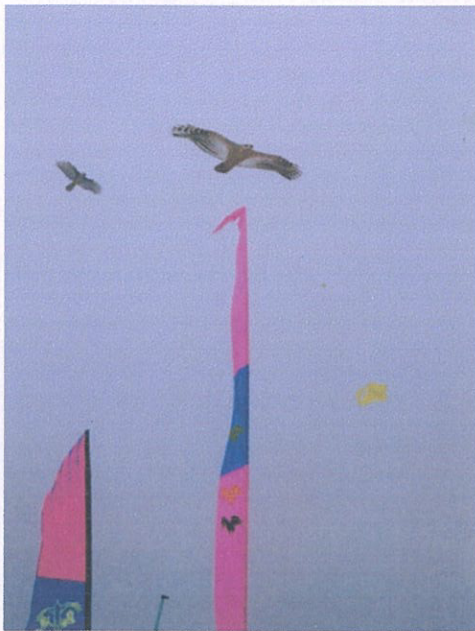


鳥凧制作ノート

大空高く、舞うことを祈りつつ・・・

『たかが鳥凧、されど鳥凧』
新潟鳥凧の会 市川勝志郎 編



このノートは、あくまでも基本的なことを記してあるノートですが、鳥凧制作自体が、機械的な作業ではなく、作る人の個性が良く出る作業です。創造的な作業なのです。凧そのものの制作より、鳥の形を造型すると思ってください。しかし、やはり凧です。凧のもつ機能を忘れずに制作しましょう。

なお、文章で表し難い部分がありますが、表現が貧相と思ってお許しください。でも、いろいろ考えて制作することも勉強の一つです。

私たちが試行錯誤の連続でした。最後に、この通り制作しても必ず飛ぶという保証はできません。私自身、制作したものは、必ず飛ぶという保証はないのですから。だからこそ、揚げる時の緊張と揚った時の感激は深いのです。

ここに記すのは、『蒼鷹』の制作ノートです。基本は、全てに応用できます。

始める前に、道具をそろえましょう。

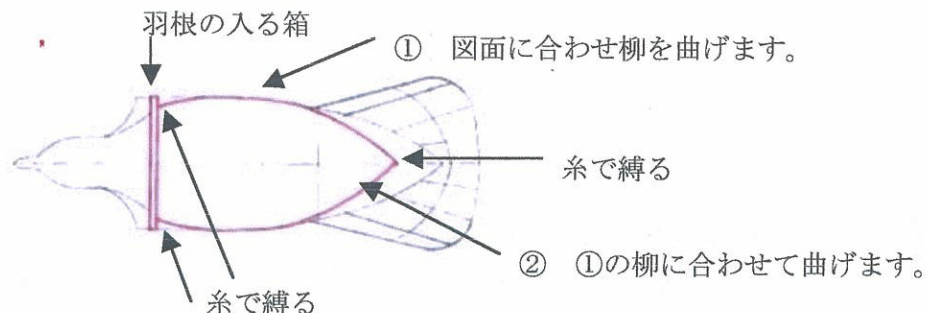
ナイフ。錐（四ツ目）。ニツパ。糸（＃30）。ボンド。ゼリー状瞬間接着剤。糊。刷毛。紙やすり。曲尺。錐の針は細い物で柄の部分は細く削ると使いやすい。

柳の枝は、5ミリ径位の枝。竹ヒゴは、1ミリ角と2×3ミリ。バルサ材とヒノキ材（2×10mm、3×30mm）。和紙。染料です。羽根の支柱はヒノキ材ですが、最近ではカーボンを使用します。参考文献・『日本の野鳥』（山と溪谷社）

新潟鳥凧の会 作成

さあ、始めましょう。

1) 上から見た図面を出します。



①と② ローソクであぶりながら曲げますが、燃やさないように、火の当たる所を濡らしながら、ゆっくり手に力を入れて曲げましょう。同じ所で曲げようとしないこと。周りもあぶりながら曲げましょう。左右同じように曲げましょう。二本とも柳同志合わせてみましょう。歪んでいたら直しておきましょう。

この時、水平に柳になっているか平らの所で確かめる。この作業を手抜きすると、後で泣くのは貴方です。鳥凧は、糸日が一本なので水平、垂直がバランスに影響します。左右同じ位の太さの柳を使うこと。この点だけは、急がず作業してください。

2) 羽根の支柱の箱に①、②の柳を取り付けます。

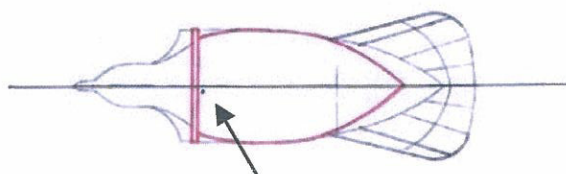
箱は、羽根の支柱が入るので羽根の支柱の太さにより決定します。蒼鷹で使用する箱は、鷗、鳶、朱鷺、熊鷹などまでの大きさにも使用します。白頭鷺、鶴、白鳥、コンドルなど大型のものは、支柱も太くなり、箱も大きくなります。

箱は、ヒノキの角材で作っていましたが、軽くて丈夫な羽根の支柱を追究したところカーボンが良いのでここではカーボン（内径4ミリ、外径6ミリ）を使用します。

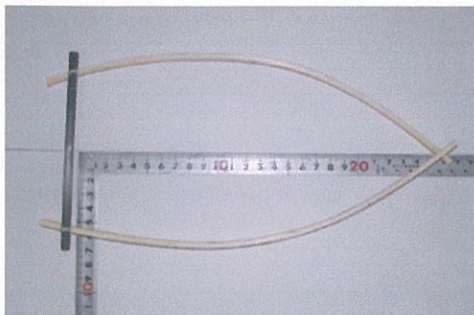
なんとか『強風に耐え、微風で揚がる鳥凧』を追究し、たどり着いたものです。難点はコストが高くつくが丹精こめて制作し、よく揚がったのに羽根が折れたり、微風で重く揚がらないなどのことを考えると、『強風に耐え、微風で揚がる鳥凧』のためには良いものです。

柳の①、②は上面を少し削りカーボンが乗るところが平らになるようにします。また、柳の①、②の交点は平らな面で結ぶほうがしっかり結べます。

カーボンと柳の接着には、ゼリー状の多用途瞬間接着剤を使用します。もちろん、接着後糸で十文字に縛ります。



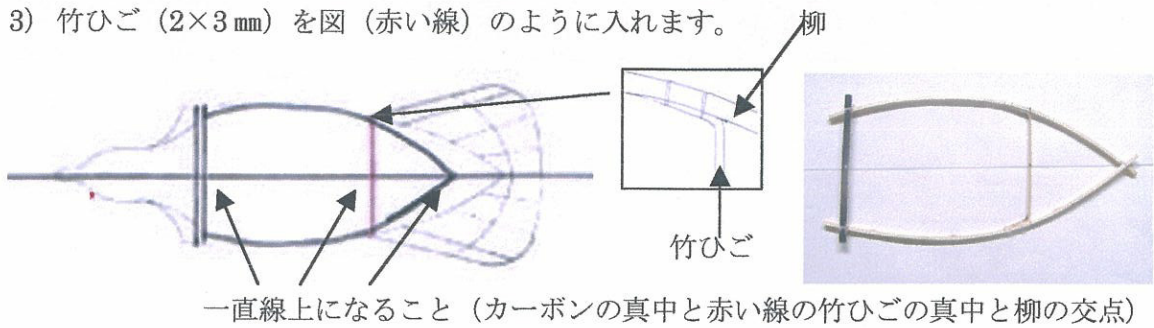
直角になるようにご注意ください



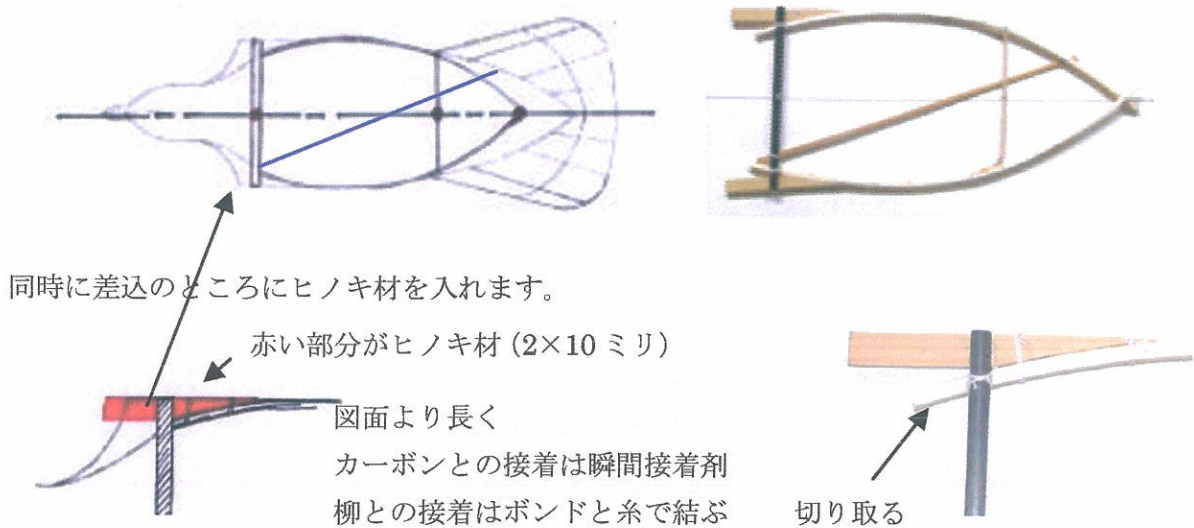
箱の中心と柳の①、②の交点を結ぶ直線が、箱と直角になるようにしてください。これは絶対的な条件です。慎重に取り付けてください。

新潟鳥凧の会 作成

3) 竹ひご (2×3 mm) を図 (赤い線) のように入れます。

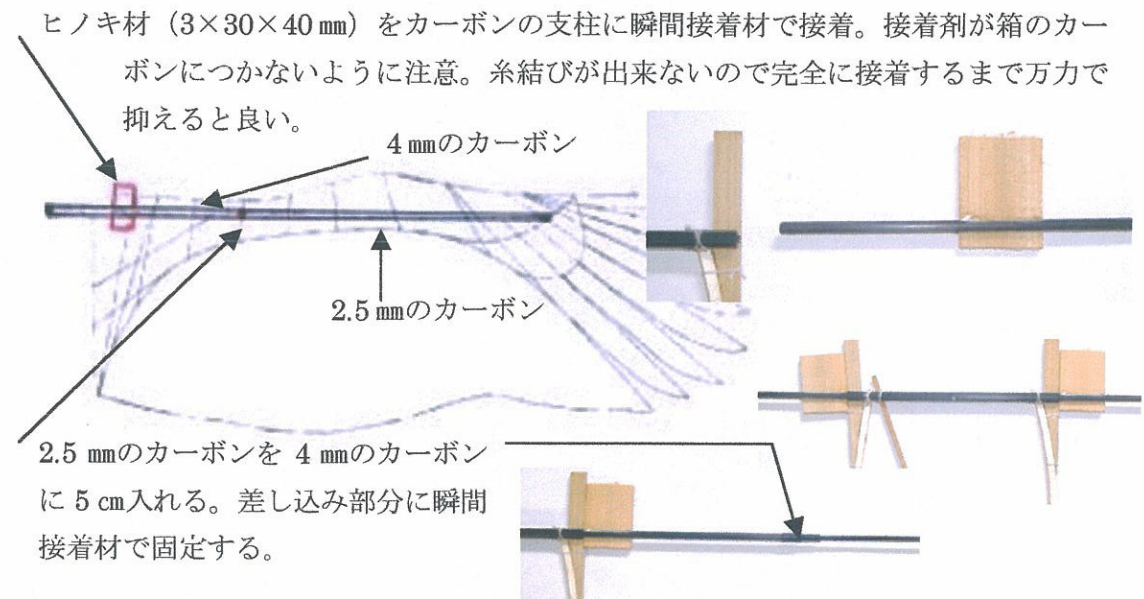


4) 3) で三点が一直線上になるように作りましたが、作業が進むにつれて狂いだすのを防ぐためさらに図 (青い線) のように筋交いを入れます。この竹ひごは図面にはありません。完成間近になったところではずします。

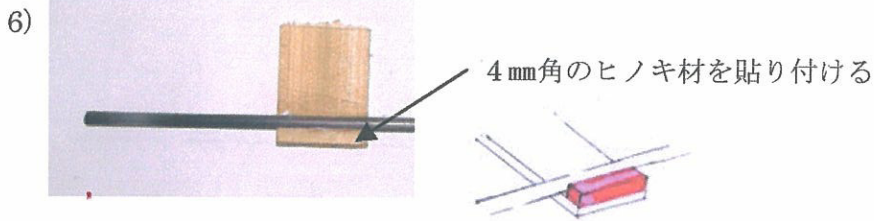


5) 胴体が立体になる前に羽根の支柱を作ります。

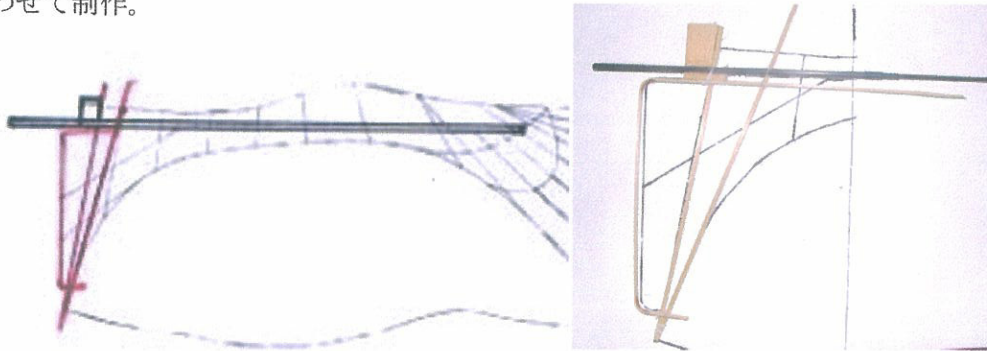
羽根の支柱は、カーボン (内径 2.5 mm、外径 4mm と 2.5 mmカーボン無垢材) を使用します。左右の羽根を同時に作ります。ただし、右の羽根は図面に合わせますが、左の羽は先に造った右の羽根に合わせて作ります。



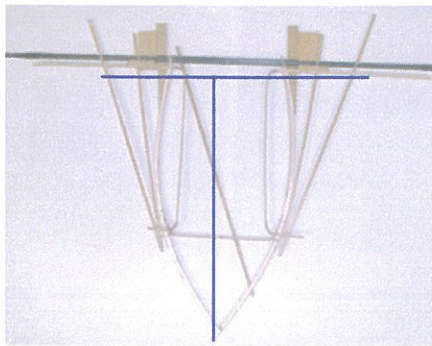
新潟鳥凧の会 作成



7) 赤い部分の制作。2×3mmの竹ひごで図面にあわせて作る。左の羽は、出来上がった右に合わせて制作。



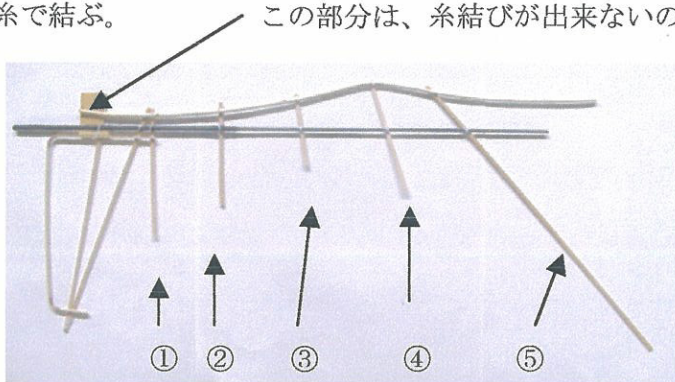
8) 左右の羽根の基本が出来ました。左右の羽根を重ねて同じか確かめてください。



写真では曲がって見えますが、青い線のように水平、垂直を確認してください。ゆがんでいたらこの段階で修正してください。

9) 右の羽根を制作します。図面にあわせて柳を曲げます。ゆがみも直す。机の上に置き平らになっているか確かめる。

曲げた柳と①、②、③、④、⑤の竹ひご(2×3mm)を図面の上に置き(少し長めに取ること。固定してから切る)ボンドを付け、上から抑え接着します。2~3分後に接着したところを糸で結ぶ。

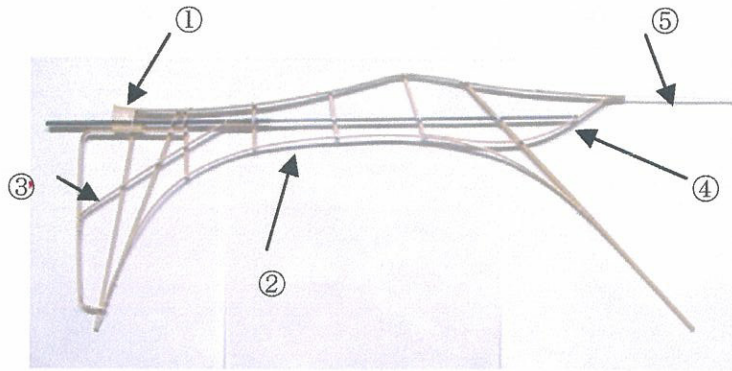


この部分は、糸結びが出来ないので、万力か、重石で完全に接着してください。その後、①、②③、④、⑤の竹ひごを入れる作業をすると良いようです。柳は、接着面は平らに削ることただし、余り削り過ぎないようにご注意ください。

10) 左の羽は、図面が裏ですので、9)で出来たものにあわせて柳と竹ひごを入れてください。あくまでも、左右の羽根は、ピッタリと合うようにしてください。柳の太さはもちろん左右同じ太さのものを選ぶこと。

新潟鳥凧の会 作成

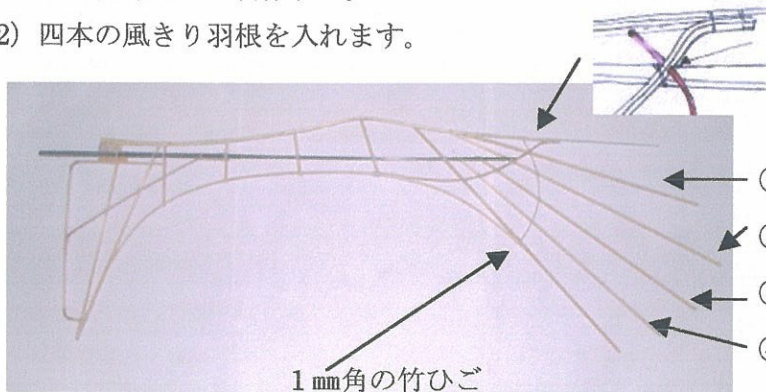
11)



- ①柳とカーボンの間をバルサ材で埋める。
- ②図面にあわせて柳の小枝(2mm位)を接着。
- ③図面にあわせて、竹ひご(2×3)を接着。
- ④図面にあわせて竹ひご(2×3)を接着。

⑤初列風きり羽根：図面にあわせて竹ひご(2×2)を接着。墜落する時この竹ひごがおれるので最近、グラスファイバーを使用。このくらいの大きさなら、1~1.5mmを使用。左の羽も、合わせて制作する。

12) 四本の風きり羽根を入れます。

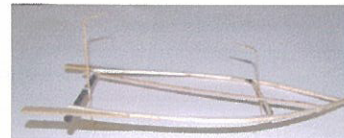
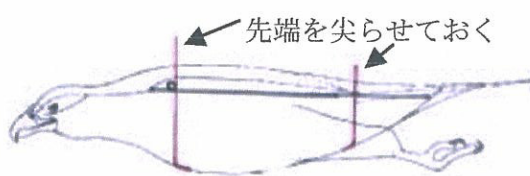


錐で穴を開け、1mm角の竹ひごを差し込む。

- ① ①、②、③、④共に、竹ひご(2×3mm)を図面のように入れる。
- ②
- ③
- ④

13) 次に胴体を立体化します。

カーボンの中央と下腹部の中央に竹ひご(2×3mm)を垂直に取り付けます。図の赤い線。



14) いよいよ、『くちばし』を制作します。

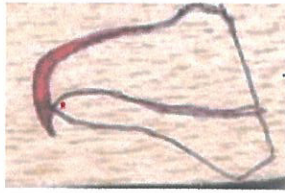
くちばしはバルサ材を使います。図面のくちばし部分を写しとり、切り取ります。最初から、こまかな彫刻をすることはできません。横から見たくちばしを切り取ったら、正面から見た形に削り取りますが、中心線を引き、彫刻刀で溝を掘り、柳を埋めます。糸でぐるぐる巻きにし、柳とバルサがボンドでくっつくまで待ちます。

横面、正面、の形が出来たら、いよいよ角を落としますが、口の部分をマジックで書き、彫刻刀で掘り出します。この時、正面から見ると左右同じ様になっているか確かめてください。このマジックの線がくちばしの表情を決定します。以前、野鳥の会の人がこのくちばしは嘘ですと、言われそれ以来、リアルに作るように心掛けています。出来たら、写真を見て観察しましょう。参考写真は『日本の野鳥』を手本としています。

角を削りながらいろいろな角度から眺めてみましょう。妥協しないで納得いくまで頑張ってみましょう。しかし、あまり削り過ぎて、失敗することもあります。ご注意。さて、もういい

新潟鳥凧の会 作成

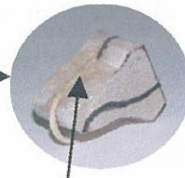
でしょう。立派な『くちばし』になりました。猛食類のくちばしになりましたネ。肉を切り刻む程のくちばしです。



幅 20 ミリのバルサ材に
図面のくちばしを転写
赤い部分は後で竹ひご
を埋め込む。



輪郭に沿って
削りこむ。
角はまだ削ら
ない。



中央線を引き 2×3mmの竹ひごを埋める。
くちばしの先端は削る。



横面を削ります。まだ角は削りません。
正面から見た写真のように側面のくびれと
くちばしの先端を削りこみます。



⇒

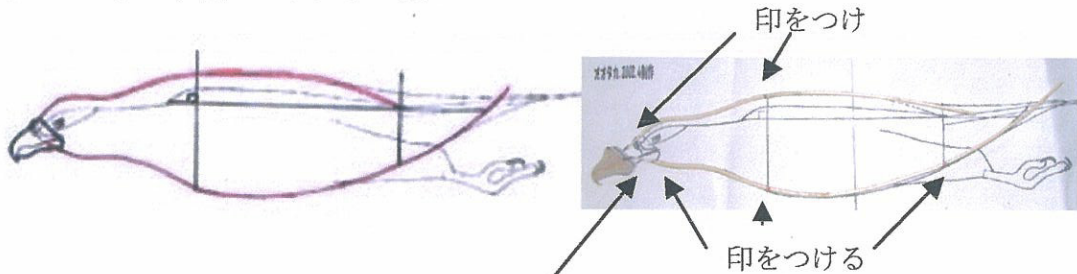


角を落とし、紙やすりで研く。
中央の線を三角刀で溝を作る。



15) 図の赤い線を柳 (4~5mm) できちんと曲げます。

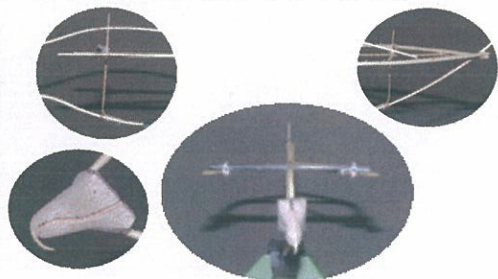
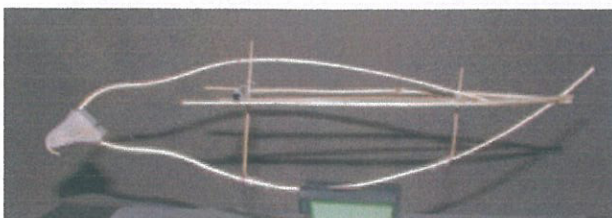
出来上がった柳は、平らになっているか机の上で確かめる。凧の中心となる部分ですの
で、きちんとゆがみを直しておくこと。



柳の先端はバルサで作ったくちばしを差し込むため尖らせておく。

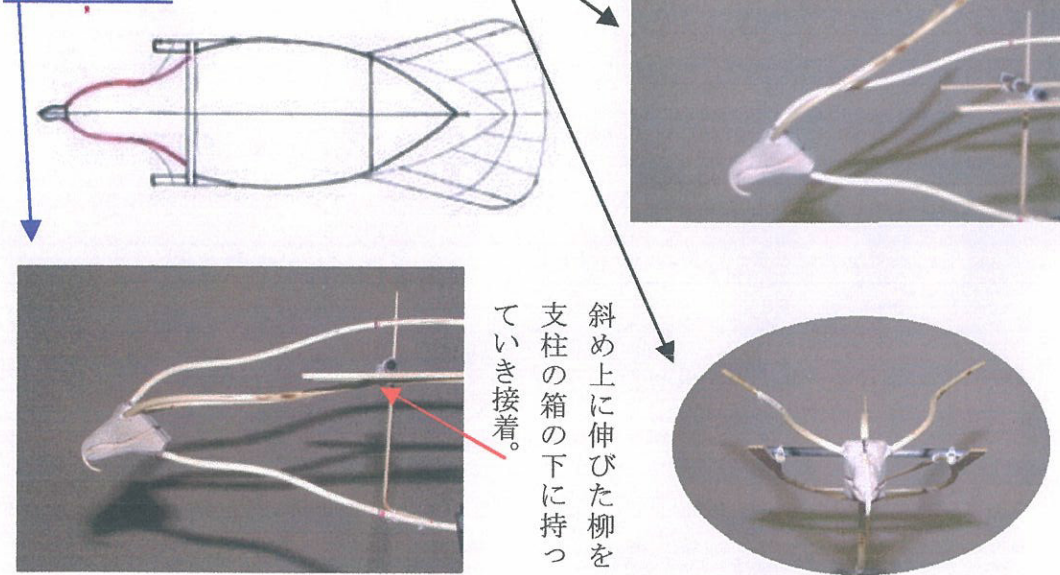
16) くちばしと連結です。つけ具合で顔が上を見たり、下を見たりするので、前を見て飛んでいるように取り付けてください。錐の入れ形でその形が決まります。ボンドは、何度も差し込み、納得行くまで行ってください。ボンドは最終決定の時、使い差し込みます。

次に、胴体と連結します。あらかじめ印をつけた所で糸縛りをします。最後に、背骨です。印をしてありますが、直ぐ前を向いて飛んでいるよう表現し、印にとらわれず良く眺め、差し込みます。いろいろ動かしてその位置を決定し、錐で穴を開け差し込みます。背骨の先は、腰の横骨の真ん中に差込みます。正面から眺め垂直になっているか確かめましょう。

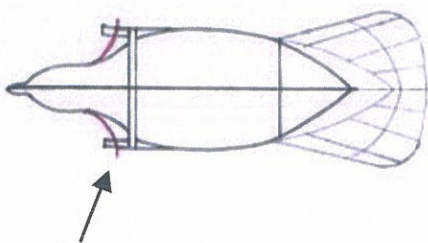


新潟鳥凧の会 作成

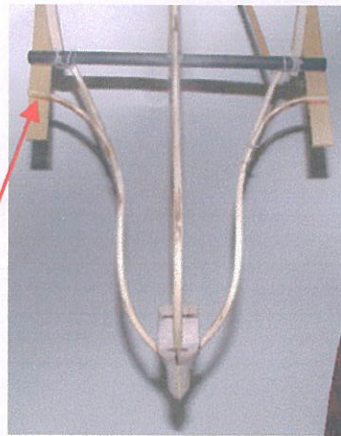
17) くちばしの左右に頑側骨を取り付けます。やはり、図面に合わせて柳を曲げます。左右二本作ります。くちばしの鼻孔の側に差し込みますが、左右同時に差し込み正面から見ると、斜め上に柳が伸びるようにしてください。頑側骨の一方は支柱の箱の下(左右同じ場所)に縛ります。



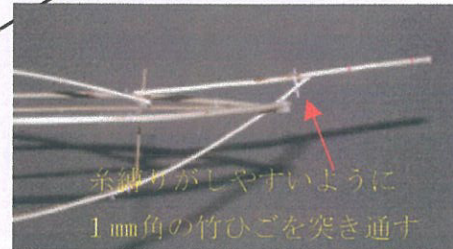
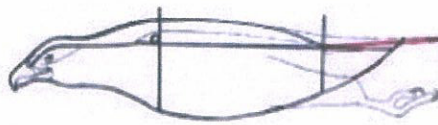
18) 赤い線の部分を柳で作ります。接着部分の柳は、平らに削ります。



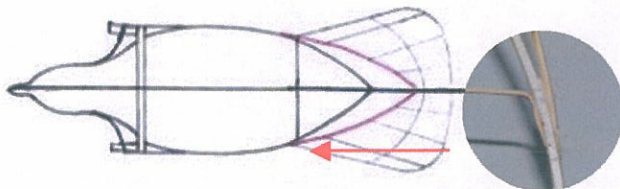
糸縛りが難しいので万力で締めると良いようです。



19) 次は、尾の中心骨を入れます。この柳だけは、唯一つの直線の部分です。良く直線になるまで手でしごいて取り付けてください。

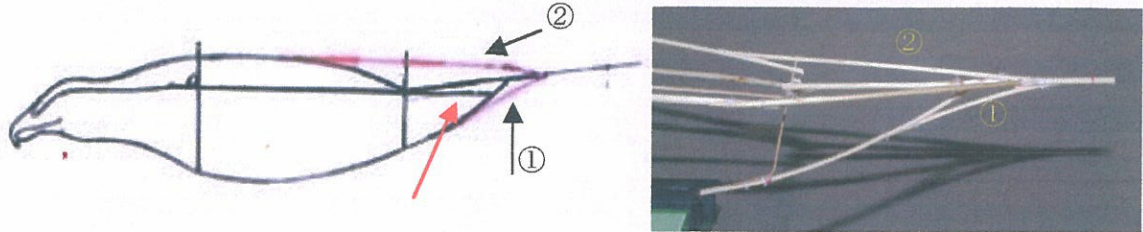


20) 左右の上尾筒骨(下図の赤い線)です。図面を参考にして、左右同じ様に作りますが、胴体の横の線と流れが続くようにしてください。



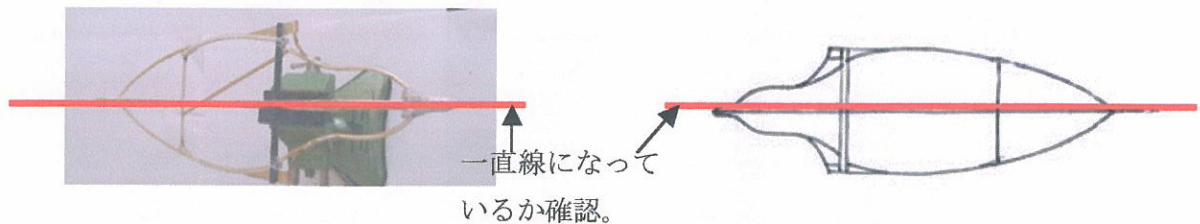
新潟鳥凧の会 作成

21) さて、今度は、下足筒骨（赤い線の①）と上腰骨（赤い線の②）を取り付けます。



上尾筒骨 (20) の工程) を取り付けたら切り取ります。

22) 胴体と羽根の骨格が出来上がりました。くちばしの先端から尾の先端まで一直線になっているか調べてください。ゆがんでいたら、今のうちに直してください。火であぶりながら修正してください。特に糸目が入る腹部の骨が中心線上になっているかを確認することです。これで尾を残し、胴体の骨格ができました。どうでしょうか。良くできていますか。なにか飛びそうですね。さあ、一息入れて頑張りましょう。

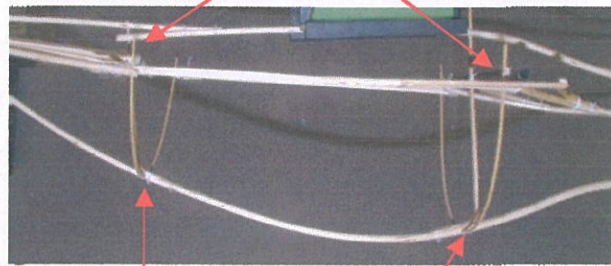


一直線になっているか確認。

23) ここからは、胴体の縦骨の部分です。内臓を抱く肋骨の部分でもあります。鳥凧は、内臓はありませんがネ。

縦骨（1 mm角の竹ひご）は、写真のように二箇所入れます。この曲線（半円）が全ての縦骨の基本になります。正面から見て、心地好い曲線（半円）ができていれば良いのです。左右対象に見えますか。中央の胸骨の柳の中を通った部分は、ボンドで止めます。

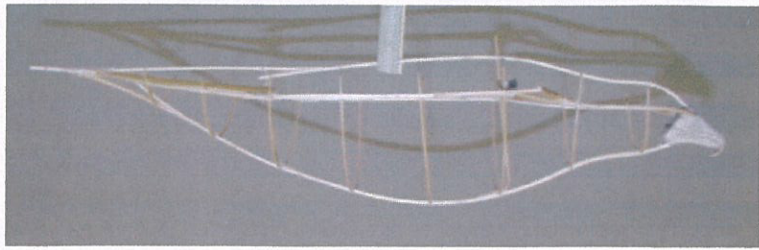
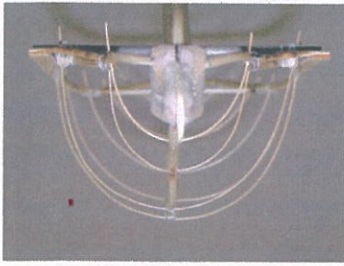
突き抜ける。ボンドはまだです。



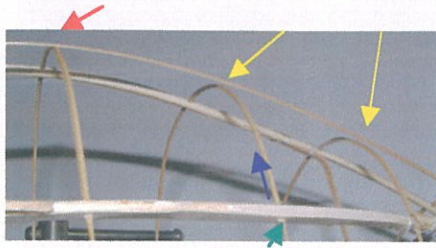
ボンドを入れて固定する

24) 次の縦骨は前に進むもよし、後ろに進むもよし。間隔は当分になるよう注意します。落ち着いて、入れる前に竹ヒゴをしごき、楕円形にしておいてください。

初めに入れた縦骨と次の縦骨の間隔は、紙を貼る時の面積に関係します。余り、離すと紙がうまく貼れず、間隔を狭めれば竹ヒゴを多く使用し、重量がかさみます。人の凧が揚がっているのに自分の凧だけが、早く降りてきます。また、デザインの的にもあまり褒められません。用は、感覚ですね。私の場合、5cmくらいの間隔で縦骨を入れます。また、場所によっては斜めに入れます。スピード感を表現し、前進する感覚です。ここにもこだわりの鳥凧制作があります。



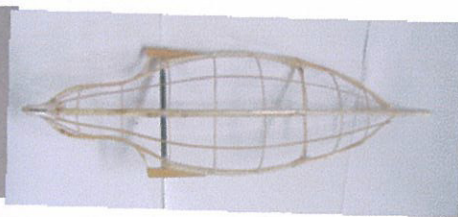
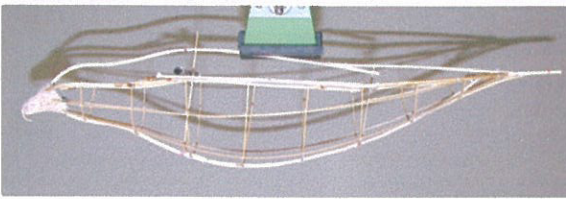
21) 縦骨が全面入りましたネ。次は、くちばしから胸、腹へそして、尾のつけねまで横骨を入れます。図面には出ていませんので写真で確認してください。



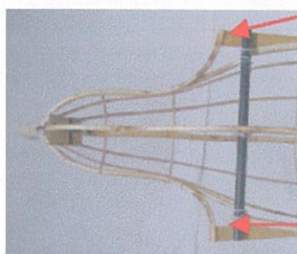
① くちばしのバルサに ④ ③ ② ①
差し込む、次に②、③、④と順に縦骨に糸結びを
していく。最後に尾の付け根⑤に糸結びをする。
この時、横骨を黄色の矢印方向に引く。
すると左の写真のように縦骨と横骨が接してい
るところと隙間があるところが出る。

上の写真の黄色の矢印の所は隙間がある。赤印の所は縦骨と横骨が接している。このまま糸結びをするとへこむので、青印のように縦骨を移動し調節すると良い。そのために緑のところはボンドをつけないのです。紙を貼ると、その理由が理解できます。

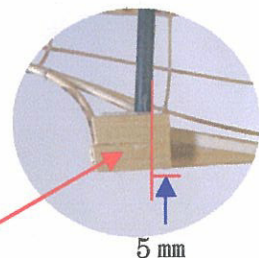
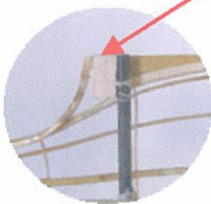
右を入れたら左を入れます。中央の柳と横骨が左右同じ間隔になるよう注意してください。左右対称に制作ください。バランスと紙を貼ったあとの美しさが違います。横骨の本数は鳥の大きさによって違います。蒼鷹は、二本入ります。横骨が入った後は上の写真の緑の点（横骨と柳の差込点）にボンドを入れて接着します。横骨が入った写真です。



22) さあ、もう一息。最初に入れた筋交いはもうはずしてもいいです。尾をつける前に背中部分を作ります。最初に写真のようにバルサ材をはめ込みます。



バルサ材を埋める。カーボンの高さにそろえる。

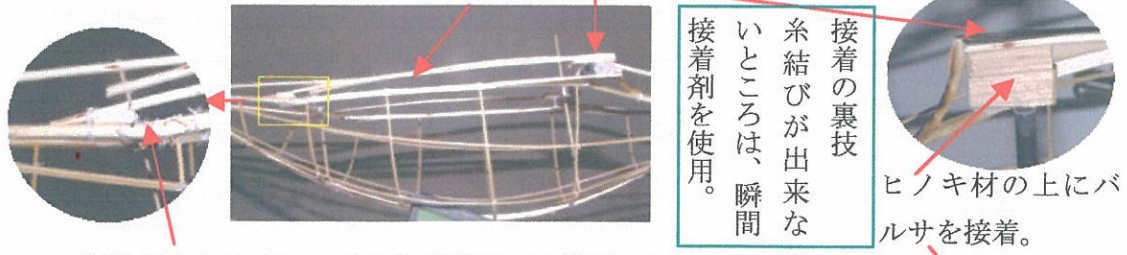


23) 今埋めた上に、ヒノキ材 (2×20×30 mm) を接着します。

5 mm

新潟鳥凧の会 作成

24) 23) で制作したヒノキ材の上に柳を接着。



接着の裏技
糸結びが出来な
いところは、瞬間
接着剤を使用。

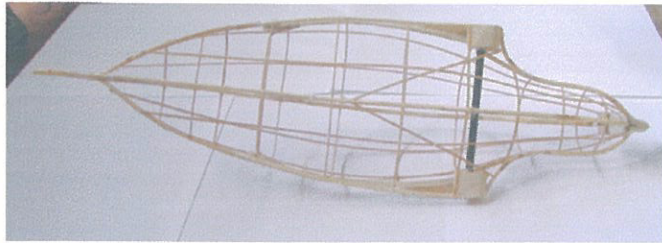
ヒノキ材の上にバルサを接着。

羽根が入るので3mmの高さが必要。三角形の枕木を差し込む。

25) 腹部と同様に1mm角の竹ひごを入れていきます。

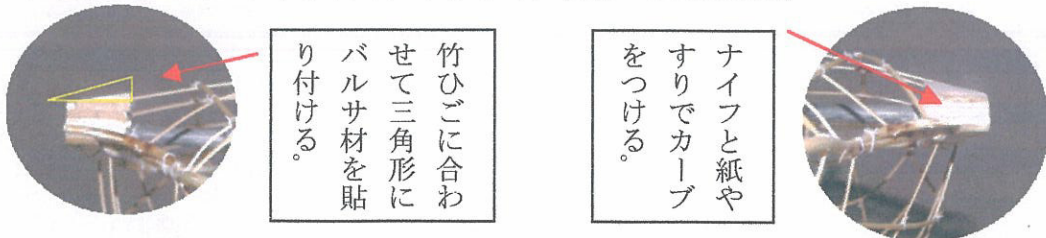
同じ様にやりますが、大きな膨らみがありませんので、両端もボンドで止めながら進めましょう。

この部分での注意事項は、ボンドで止めながら、背骨の柳は常に中央を走っていることです。左右どちらかに偏っては行けません。正面から見ながらボンドで止めてね。左右どちらかに偏った部分があれば背骨はまがって見えます。



26) 箱の上の肩羽根の部分を削りだします。

ここは、羽板を取り外したり、付けたる時、親指のあたる部分。

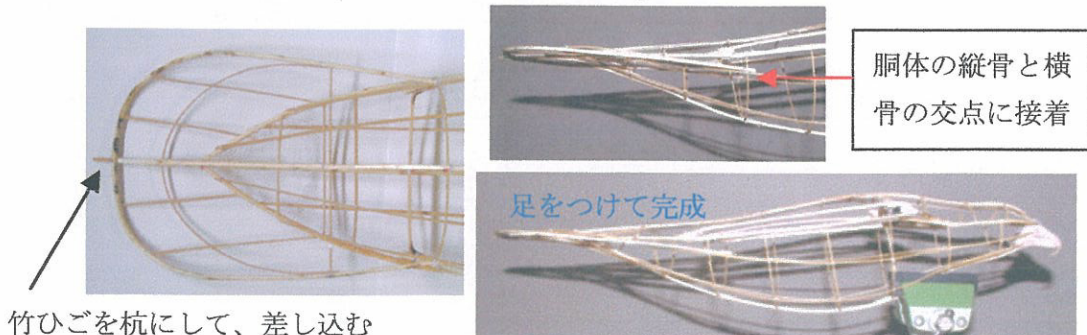


竹ひごに合わせ
て三角形に
バルサ材を貼
り付ける。

ナイフと紙や
すりでカーブ
をつける。

27) もうすっかり鳥の形になりましたね。でも、喜んで入られません。尾がありません。尾は尻上がりになっていますが、この角度と尾の広さは、まだ、究明出来ていません。本物の鳥は、翼同様良く動かし、飛んでいます。凧としての角度と広さは不明です。貴方の研究課題としますのでいろいろな角度と広さでテストしてみてください。解明出来た人は、『新潟鳥凧の会：性能開発賞』ものです。

図面にしたがって、左右同じものを柳で作り取り付けてください。竹ヒゴで尾骨を何本か入れてください。場合によっては、横線も入れます。



胴体の縦骨と横骨の交点に接着

足をつけて完成

竹ひごを杭にして、差し込む



脚はまだですが、吊るしてみてください。重心点も全長の 1/3 の所で水平になります。正面から見ても左右のバランスは良いようです。狂っていたら、翼をはかりで計り、風きり羽根を削りながらバランスを整えてください。もう少しです。脚を削っている間、吊るしておいて眺めると我ながら惚れ惚れする出来で、感激もひとしおです。大空を飛翔する姿を、イメージして脚を削りましょう。

28) 脚の形の腿は猛食類と水鳥は違います。



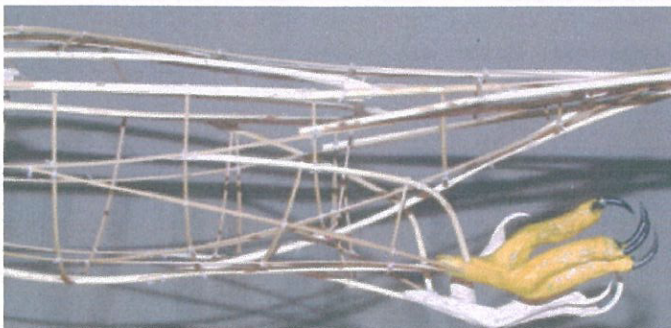
バルサ材でくちばしを作った要領で制作しますが、足の指は、四本でできています。真ん中の指と残りの三本の指は別に作り、ヒゴ釘でボンドと一緒に付けます。胴体に取り付ける前に、着色した和紙を貼り、その上からボンドを塗り込み (光沢を出すため)、爪も差し込んでおきます。取り付けてからでは、紙貼りが難しいからです。

さらに、もう一つリアルに表現するため、太い凧糸を足に巻き付けてください。脚の表現です。どうです。もう立派な鳥の脚ができました。鈍い爪は、獲物をつかまえる大切な部分です。その執念は、きっと良く飛んでくれるでしょう。

29) 脚を取り付けます。その取り付けも表現の一つで、貴方の感覚で自由に取り付けてください。でも、野鳥の会の人たちに笑われないようにしましょうね。

胴体に近づけるのもよし。胴体から離し表情を表現するのもよし。今、飛び立つ姿のように見え、飛び終えて巣に戻る姿勢にも見えます。さらに、獲物を見付け、狙いを定めた脚のようにも見えます。この想像がまた、たまらないのです。飛ぶためには、影響はありませんでした。鶴を飛ばした時、空中で片方の脚が、落下した事がありました。何と見事に飛んでいました。『良い作品は、いい凧だ』との教訓もあります。

脚の取り付け部分の柳(上下二本)は、図面よりデザイン的に考えて柳を曲げて取り付け、横線の竹ヒゴは、胴体の横骨につながるようにしましょう。腿の膨らみも鳥によって違います。研究して見ましょう。図面に頼らないで貴方、自身の創作ですよ。写真では左右違うように制作してありますが、見本のため左右の取り付け方に違った表現をしてみました。ただし、左右のバランス上左右の形は同じように制作してください。



新潟鳥凧の会 作成



さあ、胴体は出来上がりました。どのくらい時間がかかったでしょうか。でも、時間の問題ではありません。貴方は、そのまま、捨てられる柳の枝と竹ヒゴで貴重な形あるものを創作したのです。物を作る喜びと手仕事こそ、文明の世に大切な事ではないでしょうか。 ナイフ

で削り、錐で穴を開ける。竹と柳をボンドと糸で接着し、糸を結び。現代の子どもに最も必要な作業ですが、残念ながら忘れられています。集中した時間こそ最も尊い時間を費やしたのです。今後も、仕事とは別に、こんな時間をすごしてみてもどうでしょうか。胸骨に糸で吊してみてください。左右のバランスは狂っていないはずです。背骨からもてみてください。バランスは狂っていません。合格です。

おめでとうございます。飾りにしても立派な作品となりました。

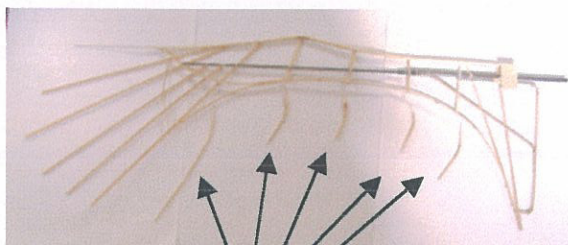
30) 胴体は、感覚が要求されましたが、羽根は、鳥凧としての生命です。感覚やデザインもさる事ながら、凧の機能を優先します。

左右同じ羽板が要求されます。左右同時に作るといいでしょう。鳥は、翼と自らの意思で、飛行機はエンジンで、鳥凧は羽根で飛びます。羽根が風を抱き、流し、乱気流を押さえ見事に大空高く舞う時、鳥凧の世界の中でこの上ない幸せを感じる瞬間です。

翼は、胴体を作る前にほぼ出来上がっていました。最終段階の羽根の上部です。翼と胴の付け根にバルサ材で同じように接着します。次に、アールの柳を取り付けます。錐で穴を開け差し込み、一方は、糸で結びます。



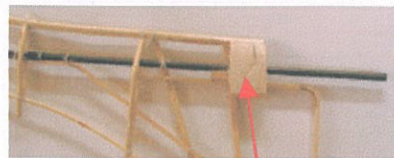
翼を胴に差込バルサ材を接着すること。



柳を曲げてアールを作る



アールを取り付けました。



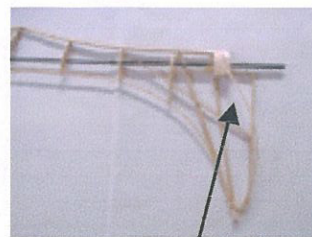
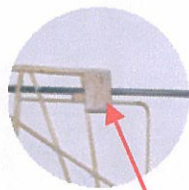
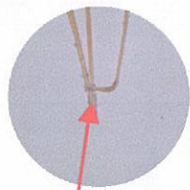
ナイフで削り、紙ヤスリで整える。胴体の差込部分と同じにすること。



ゆがみ止めのバルサ材を埋める。

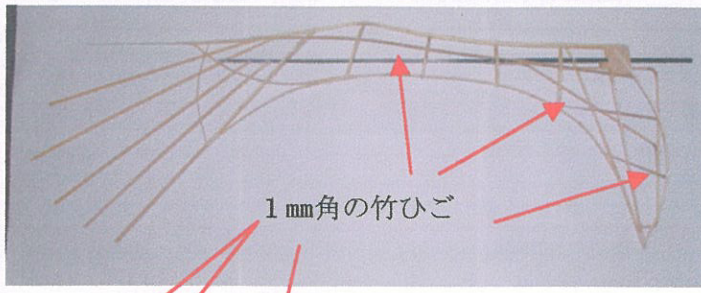
ここから奥の三箇所

次に胴体と重なる部分。
写真参照

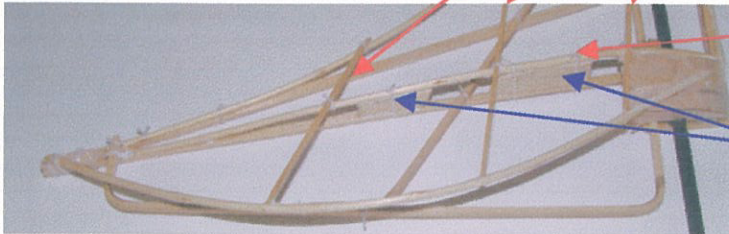


バルサ材を枕木として接着 切り込みを入れる 柳を接着

新潟鳥凧の会 作成



胴体にピッタリあたるように柳を入れる



柳のアールを1mm竹ひごの下に入れる。
バルサ材を入れる。

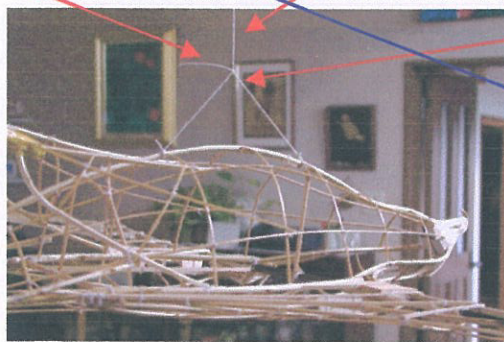
さあ、完成です。

胸骨に糸目をつけますが、羽根もつけ、水平な所を探し吊ってみてください。

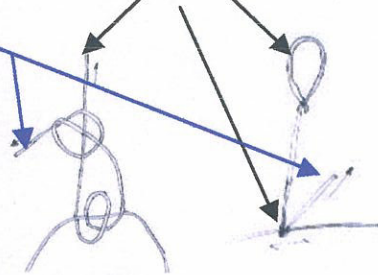
糸日はその点から、0.5~1.5cm 前です。最近では、飛ばしながら糸日をずらすことがあり（強風では重心点に限りなく近い。微風では1.5cm 位前。頭をロックするときは、糸目を後ろに下げる。など状況により変えなければなりません。そのたびに胴体に穴を開け糸目をつけることができました。）ましたが、穴を開けずに糸目の位置を移動させる方法を考えました。写真のように取り付けます。

この糸を引くと緩む

糸目の糸。揚げ糸につなげる。



結び目で糸目を前後に移動し調節



正面から見て、翼角坂が左右水平になっているか、確かめましょう。

骨組みを、写真に問っておくといいでしょう。記念の作品ですからね。



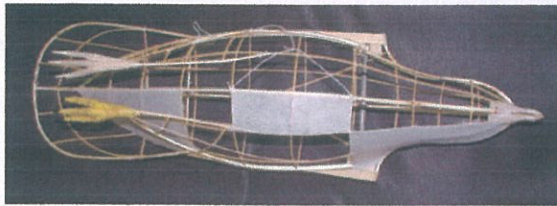
新潟鳥凧の会 作成

31) 紙貼りです。胴体から始めましょう。紙は、美濃和紙などを使用します。

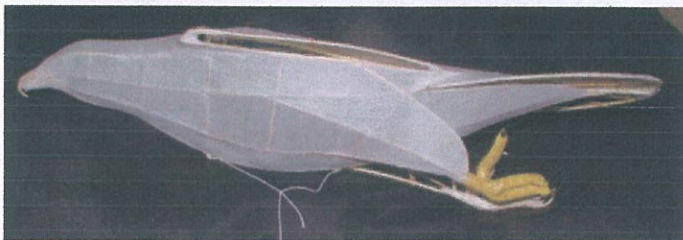
曲面がほとんどですので何面かに分け、水貼りをします。余り大きな面積で貼るとしわが出来、不満が残ります。骨に沿って和紙を当てて、適当な面を取ります。

- ① 骨組に和紙を乗せ、筆で貼る部分を水切りします。
- ② 新聞紙の上で切り取った和紙を筆で水をぬらします。
- ③ 貼る骨に糊をつけます。
- ④ 湿らせた和紙を糊のついた骨組みの上に乗せ、心静かに左右前後、そっと伸ばします。しわは伸び骨に左手を当て、右手で骨の外を引くと和紙は切れます。そっと、骨組みの上を撫でながら和紙を貼ってください。

このように次から、次へと進みますが、今貼った所はまだ乾いていないので、貼った骨を避け、違うところから始めてください。乾燥すると、和紙は、ビーンと貼れています。



紙貼りは、市松模様のように飛び飛びに貼る
完全に乾いたら、間を貼ります。



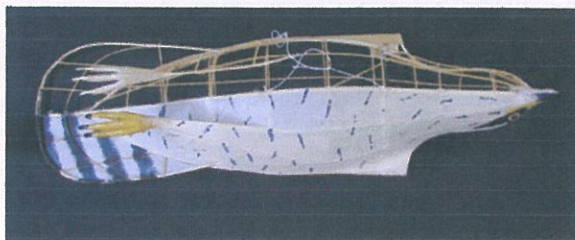
胴体の紙貼りは、完成です。

32) 紙貼りがフリルを残しての終わりました。フリルの紙を貼る前に染色です。和凧と違って顔料でなく、布などを染める『染料』を使用します。

特別な鳥以外は、黒、こげ茶、藍、の三色があれば間に合います。コーヒーの空き瓶に色を溶いて保存しておけば同じ色で補修のとき役立ちます。

ここでは『蒼鷹』ですので青味の色を使います。染料を溶き、和紙の上で色を確かめながら作ってください。

背中と尾に色を入れます。尾は色帯が4本あります。

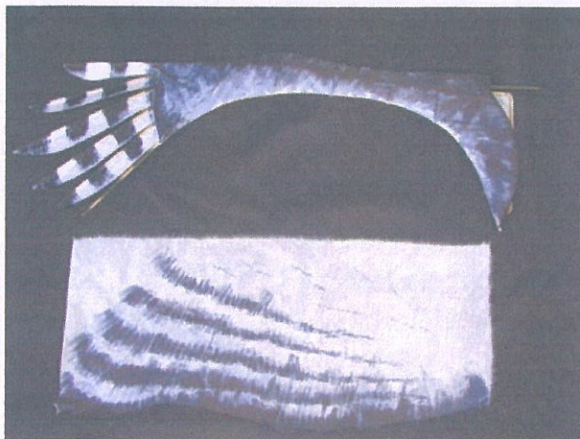


腹面は細い横斑があります。喉から首面にかけて縦斑があります。

33) 顔は、染めた和紙をちぎって貼ったほうがリアルに表現できます。眉斑と眼帯があります。目はぬいぐるみに使用する目玉を使用します。顔の表現も手抜きは出来ません。写真を参考に剥製に近い出来が要求されます。芸術的感覚の気持ちで作成します。



33) フリルの紙貼りが最後です。

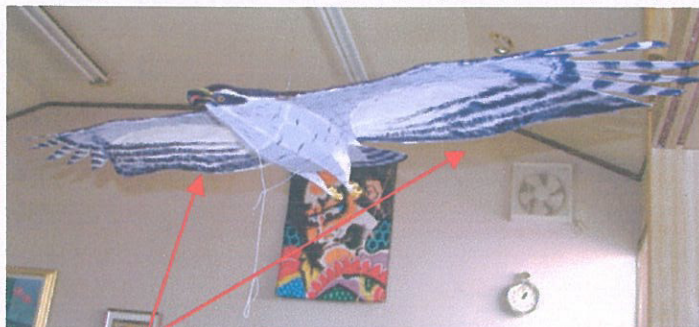


凧としての機能で最も重要な部分です。凧が左右に傾く原因の7割はフリルの紙貼りです。色物の鳥はいろ塗りをした後貼ると狂いなく貼れます。

凧が揚がるには風を受ける平面が必要です。鳥凧は翼（フリル）で風を受けますが、左右の翼にあたる風が左右同じように風を受け、風を抱き、風きり羽根で風を逃がします。そのため左右のフリルが同じように平らに貼ら

れていることがもっとも重要なのです。フリルを貼った後、色塗りをすると左右の水分の量により紙の収縮に違いが出て張りが違ってくるのです。回転はしないが左右どちらかに傾き揚がっていることがあります。フリルの緩みの違いと思われる。また、だぶついて貼られていると上昇しないこともあります。このフリルが原因と考えられます。

乾燥したら翼の輪郭に糊をつけ、平らに貼りつけます。左右のフリルを貼った時左右のたるみと同じになっていれば完成です。フリルの紙貼りは、慎重にね。貼る時、力を入れすぎて部分的に引っ張らないように。左右の翼を重ねてみてください。同じようになっていますか。



左右のたるみと同じになっているか確かめてください。

34) 完成です惚れ惚れしますね。でも、凧は揚がって初めて凧になるのです。さあ、出かけよう大空に向かって一気に飛翔する蒼鷹の雄姿。鳥凧となる一瞬です。糸から伝わる感触。自然の風の中で、凧揚げを楽しもう。

時々、本物のトンビやカラスがやってきて一緒に遊ぶ時もあります。



鳥凧・カモメと遊ぶ鷲たち